

生涯を完結できき次世代に誇れるまちへ

平成31年3月議会が、2月8日～3月7日に開かれ、平成31(2019)年度予算などが審議されました。同議会の冒頭で小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。

平成19年1月の市長就任以来

「住んでよし 働いてよし 訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向けて、常に全力投球で市政運営に取り組んできました。そして昨年末の市長選挙では、無投票により4期目の市政のかじ取り役という重要な職責を担わせていただくこととなりました。投票による審判も重いわけですが、無投票による市民の皆さまからの信任も投票での審判同様、重く受け止めており、身が引き締まる思い

です。

4期目にあたり、成田空港のさらなる機能強化、国際医療福祉大学成田病院付属病院の開院、新生成田市場の3本の柱に加え、「災害に強いまちづくり」「スポーツツーリズムの推進」「空港周辺道路網の整備」「医療・福祉の充実」「子育て世代に魅力あるまちづくり」を目標として掲げ、「市制施行65周年」を迎える本年も引き続き市民ニーズを的確に捉えた施策を実践していきます。

市民の皆さまが成田の輝かしい未来を感じられるよう、市政の各分野で山積する諸課題に真正面から取り組む覚悟です。

2019年度の予算は、行政改

革推進計画の措置事項を確実に実践し、一層の経費節減に努めました。同時に、成田市総合計画「N A R I T A みらいプラン」第1期基本計画の最終年度となることから、将来都市像の実現に向けて掲げている「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共々に発展するまちづくり」の3つの方向性に基づく施策を着実に推進するため、限られた財源を重点的かつ効率的に配分しました。一般会計は対前年度比2・7パーセント増の606億円、水道事業会計などを含む特別会計を加えた全体は9・2パーセント増の約982億円となりました。

主要な施策への取り組み

成田空港については昨年3月に

国、県、空港周辺9市町、空港会

上空から見た公津の杜地区周辺



施政方針演説をする小泉市長



新鮮な食品がそろう成田市場

社で構成された四者協議会で、滑走路増設を含めた成田空港のさらなる機能強化が合意され、引き続き騒音地域の皆さまの「生活環境の保全」と「空港の機能強化」との調和を目指していくことが確認されました。今後、旅客数や貨物量の大幅な増加、空港周辺地域における産業振興やインフラ整備、生活環境の向上など、さまざまな効果をもたらすことが見込まれます。

一方では、深夜早朝の騒音影響に対する不安や、集落のほとんどが移転対象となる区などに残される住民への対応など解決すべき課題も残っています。引き続き関係機関と連携しながら、課題の解決に向け全力で取り組んでいきます。卸売市場の移転再整備事業については、衛生管理の整った加工施設や日本初のワンストップ輸出拠

点機能を有する高機能物流棟に、豊富な輸出入実績を有する事業者の入場が決まるなど、本市が目指す輸出拠点化に向けて、大きく前進が図られたところです。

また青果の分野では、すでにはほかの市場で青果卸売業務に参画している事業者が、本市場の青果部卸売業務を実質的に担うこととなりました。この事業者の強みでもある産地との強固な連携と集荷力により、青果部の機能強化が図られるものと期待しています。

さらに、消費拡大に結びつくインバウンド需要獲得と新たな観光拠点としての役割を目指した民間での集客施設の整備も進めていくなど、新たな付加価値を備え、将来を見据えた市場を目指し、積極的に事業を推進してまいります。

国家戦略特区推進事業では、開学から4年目を迎える国際医療福祉大学の学生数が1,800人を超えます。本市と大学との連携事業は年々充実し、市の各施策に対する協力はもとより、多くの学生

が地域行事やボランティア活動に積極的に参加され、地域の活性化にも大きな役割を果たしています。また、2020年4月には付属病院の開院が予定されていることから、引き続き付属病院を核とした将来的な医療産業集積に向けた調査・検討を進めてまいります。

スポーツの振興については、中台運動公園水泳プールの改修や大谷津運動公園野球場の再開に向けた施設整備を進めてまいります。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け機運醸成を図るほか、J-R成田駅・京成成田駅などで交通案内や観光案内などの「おもてなし」を行う都市ボランティアの育成を図ります。

さらに、オリンピックにおけるアメリカ陸上チームや、パラリンピックにおけるアイルランドチームの事前キャンプの受け入れ態勢を整えるとともに、ホストタウン事業による市民の皆さまとの交流など、引き続きスポーツツーリズムの推進に取り組んでいきます。

安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる

昨年は「北海道胆振東部地震」などの大規模地震や、記録的な豪

雨による浸水害や土砂災害など、全国各地でさまざまな災害が発生



地域住民が参加しての防災訓練

図ります。

建築物耐震化では、地震発生時のブロック塀などの倒壊を未然に防止するため、新たに危険コンクリートブロック塀などの撤去に対する補助を実施します。

また、ごみ減量化対策では清掃工場の適切な運転管理を図るためにも、ごみの減量化は喫緊の課題となっております。ごみ分別区分の周知やリサイクル運動団体の育成と加入促進、さらには30・10運動の推進など、さらなるごみの減量化・再資源化に取り組みます。市民の皆さまもご協力をお願いします。

いずみ聖地公園では新たに整備した芝生墓地の募集を開始します。公共下水道の整備では、飯仲・宗吾地区の汚水整備を実施するとともに、道路冠水被害が発生している土屋・大清水地区などの雨水排水整備を実施します。

健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる

保育園の待機児童解消への取り組みとして、待機児童が多く発生している地域に開園予定の認可保育園3園に対して、施設整備に係る補助を行うなど、保育の受け皿

の拡充に努めます。赤坂保育園では、0～2歳児を保育する小規模保育事業所などの卒園児を受け入れるなどの連携を図り、さらに、国家戦略特区の特



子どもが伸び伸びと育つ保育環境

例を活用し、小規模保育事業所の入園対象年齢を5歳児まで拡大することにより、いわゆる「3歳の壁」の解消に努めます。

また、私立保育園などの健全な運営に対する支援、保育士の処遇改善を行うなど、保育環境の充実を図ります。

児童ホームでは、4月に橋賀台小学校の敷地内に「橋賀台児童ホーム」を開設します。さらに、大栄地区小中学校一体型校舎の建設に併せて「(仮称)大栄第一・第二児童ホーム」の整備を進め、定員の拡充や環境の向上を図り、放課後における留守家庭児童の健全育成を支援していきます。

妊娠前から子育て期にわたり切れ目のない支援を行う「子育て世代包括支援センター」では、出産

後の家庭を訪問し、きめ細かな育児支援や相談を行う産後ケア事業を開始するなど、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組めます。

がん検診については、胃がん検診では、新たに内視鏡による検査を市内契約医療機関において開始します。胃がん検診と乳がん検診では、インターネットでも受診予約をできるようにすることで、利便性と受診率の向上に努めます。

地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む

学校教育に関する施策を総合的に推進するための「輝くみらいNARITA教育プラン」に基づき、子どもたちの個々の能力を伸ばし、将来に夢と希望を持ち、自分の進むべき道を切り拓く力を育む教育を推進します。

一方で、多忙を極める教職員の負担軽減を図るべく、部活動のあり方を含め、働き方改革を進めるとともに、学校支援の充実に取り組めます。

本市が全国に先駆けて取り組んでいる児童・生徒の英語教育は、2020年から全国でも小学生3年生から実施されます。これま

障害者デイサービスでは、18歳未満の障がいのある子どもにも対象を拡大することで、医療的ケアなどのさまざまな支援を必要とする障がいのある子どもたちに日中活動の場を提供し、家族介護の負担軽減を図るなど、支援体制の充実に取り組めます。

高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」では日常生活圏域の再編を行い、支所を増設するなど機能強化を図ります。

で培った本市の英語教育のノウハウを十分に生かし、英語によるコミュニケーション能力の育成をさらに推進します。

また、個性を生かす教育の推進では、子どもたちの基礎・基本の徹底と個性・能力に応じた教育を推進するため学校サポート教員や健康推進教員を配置し、少人数学習を中心としたきめ細かな指導体制を強化するとともに、心身両面からの支援を実施していきます。

さらに、特別支援教育支援員と養護補助員を各1人増員し、特別支援教育の一層の充実に努めます。学校施設整備では、2021年

の開校を目標に進めている大栄地区の小中一貫教育校の校舎建設地の造成工事を行うとともに、一体型校舎建設工事に着手します。また、橋賀台小学校西棟の大規模改修工事を実施するとともに、全ての中学校の特別教室にエアコンを整備できるように、エアコン設置工事の設計を行います。

学校給食施設整備については、親子方式による共同調理場の整備を順次進めており、引き続き美郷台小学校学校給食共同調理場の建設工事を進めます。

文化芸術の振興では、成田空港を擁する本市の特性を生かし、友好姉妹都市や国内線就航地との交流により、多彩な文化芸術に触れる機会を提供するとともに、日本の伝統芸能などの資源を活用してにぎわいを創出し、本市の魅力発信に努めます。

空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

成田空港のさらなる機能強化や付属病院を核とした医療関連産業の集積など、新たな開発需要や人口増加に適切に対応していくための都市機能や住環境の整備が図られるよう、吉倉地区周辺のまちづ

また、文化芸術活動の拠点である国際文化会館の利便性を向上させるため、トイレの洋式化工事を実施していきます。

文化財の保存では、閉校となった旧滑河小学校の校舎を文化財保存展示施設として整備し活用するため、校舎などの改修工事の基



フォクストン友好訪問団と中学生が交流

くりの実現に向けて、合意形成に努めます。

また、京成成田駅参道口地区において、駅前良好な街並み形成を図るため、街づくり方針の検討や公共施設の配置計画などに関す



京成成田駅参道口周辺

る基本構想を策定します。

さらに、J-R成田駅西口周辺の市有地の有効活用および駅利用者の利便性向上を図るため、官民連携による土地の高度利用などを推

進し、駅前にあふさわしい施設の整備と、駅周辺のバリアフリー化に取り組んでいきます。

空港周辺における新たなまちづくりの実現のため「成田市幹線道路網整備計画」を見直し、圏央道や北千葉道路などの広域道路ネットワークと連携した計画的な道路整備に努めます。

道路照明および市管理の防犯灯については、環境に配慮した低消費電力のLED照明への更新工事を順次実施します。

都市計画では、地域にとつて望ましい公共交通網のマスタープランとなる「地域公共交通網形成計画」を2力年かけて策定します。

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

観光立市の推進では、外国人旅行者のさらなる増加が見込まれる中、日本を旅行中である「旅ナカ」の外国人に向けたプロモーション戦略として、宿泊ホテルのテレビで本市のPR動画を放送し、さらなる観光客の誘致を促進する

ほか、引き続き「成田市御案内人市川海老蔵プロジェクト」や「成田大鼓祭」「成田祇園祭」「成田伝統芸能まつり」「成田弦まつり」と

いった成田の観光資源を活用した本市の魅力発信に努めます。

商工業の振興では、地域経済の発展に重要な役割を果たしている市内中小企業の人手不足を解消するため、企業と学生をマッチングさせる合同企業説明会や、県などと連携して若者や子育て中の女性などの就業・再就業を支援するための相談やセミナーを実施します。農業については、米の需給と価

格の安定のため、需要に応じた主食用米の生産を進めるとともに、効率的な水田利用による麦や大豆、加工用米や飼料用米の作付け拡大を推進していきます。

また、持続可能な力強い農業を実現するための計画である「一人・農地プラン」を推進するとともに、農地中間管理機構の活用や農地利用集積団滑化団体などと連携

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

本市の総合的かつ計画的な行政運営を図るための指針である総合計画「NARITAみらいプラン」の第1期基本計画が2019年度をもって終了することから、2020年度からの4年間を計画期間

し、農地の集積と規模拡大を促進します。さらに、農産物の安全性を確保し、より良い農業経営の実現に向けてGAPギャップ(農業生産工程管理)に取り組むことの重要性や、認証制度の周知と理解を図ること

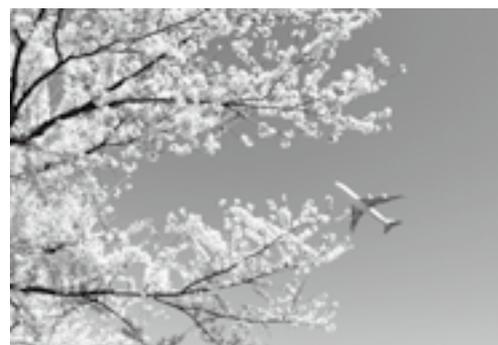
として第2期基本計画を新たに策定し、持続可能なまちづくりを推進していくとともに、引き続き市民満足度を重視した行政サービスの向上と、効率的・効果的な行政運営に努めます。

市民協働では、4月に中郷小学校の跡地を活用した「中郷ふるさと交流館」の供用を開始し、地域コミュニティの醸成を図ります。広報活動では、広報なりたをはじめ、市ホームページ、会員制交流サイト(SNS)などのさまざまな媒体を活用し、利用者のニーズに合わせた情報発信に努めるとともに、騒音地域において、ケーブ



成田の将来について話し合う若者たち

ルテレビの視聴エリア拡大に向けて取り組みます。



輝かしい未来に向かって

いよいよ、平成の時代が幕を閉じようとしています。歴史的な皇位継承まで残りわずかとなり、平成から新しい時代へ引き継がれようとしています。新しい時代が平和で災害のない時代であることを強く願うものであります。

わがふるさと成田にとつても輝かしい未来となるよう「住んでよし働いてよし訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向け、たゆまぬ努力と情熱により市民の皆さまのニーズや課題を的確に捉え、既存の枠にとらわれない柔軟な発想により本市のポテンシャルを最大限に生かし、これからの成田を担う子どもたちが誇りを持てる、未来を見据えた施策に果敢に取り組んでいきます。